

マークオサムシ

Apotomopterus maacki aquatilis (Bates)

全国カテゴリー；絶滅危惧 類

【選定根拠】 大部分の生息地で生息条件が悪化

【形態】 体長25～32mm。体は全体黒色をしておりやや光沢があるオサムシ。他種とは、上翅条溝などの状況から容易に区別できる。

【分布】 日本では本州だけに分布しており、はじめに長野県から記載されたが、現在は東北6県と新潟県、栃木県で分布が確認されている。なお、ユーラシア大陸東北部に基亜種が分布している。

【県内の分布、生息状況】 今のところ分布が確認されているのは、中通り(白河市、西郷村、三春町、大越町)と会津(会津若松市)のみである。いずれも沼や水田周辺の湿地から見つかった。

【生息に影響を与えている要因】 湿地開発

【特記事項】 過去に長野県諏訪湖での記録があるが、白河市周辺は南限に近い産地として重要である。

【主要文献】

阿部光典(1970)東北地方におけるオサムシ分布調査の経過。INSECT MAGAZINE, (76): 127-135.

平山洋人(1985)マークオサムシ後翅発達個体の記録。月刊むし, (177): 41-42.

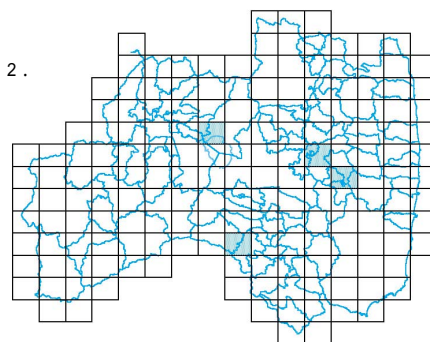
黒沢良彦(1988)会津若松市赤井谷地のマークオサムシ。ふくしまの虫, (7): 41.

水野谷昭三(1998)県南地方のオサムシ4種について。ふくしまの虫, (16): 59-60.

水野谷昭三(1999)県南地方におけるマークオサムシの現状。ふくしまの虫, (18): 139-140.

久保 隆・斎藤修司(2000)阿武隈山地で40年ぶりにマークオサムシを記録。月刊むし, (358): 2.

鈴木俊夫(2002)関東地方におけるマークオサムシの記録。月刊むし, (372): 44.



アブクマナガチビゴミムシ

Trechiana abcuma S. Ueno

【選定根拠】 大部分の生息地で生息条件が悪化

【形態】 体長は5mm前後。体色は暗赤褐色で半透明。この*Trechiana*属は、近似種が非常に多く知られており、近似種間の判別は困難である。

【分布】 鍾乳洞に生息するナガチビゴミムシで、今のところあぶくま洞の鬼穴ドリーネのみから知られている。

【生息に影響を与えている要因】 観光開発

【特記事項】 本種の生息地は、鍾乳洞という特殊な環境であり、本来の生息数が非常に少ないことから、生息確認は困難を極める。したがって生息地の保護対策を早急に行うことが望ましい。

【主要文献】

上野俊一(1992)阿武隈山地における有眼ナガチビゴミムシの発見。ELYTRA, 20(2): 145-150.

